



日本財団 助成事業
The Nippon Foundation
船の科学館・海と船の博物館ネットワーク

大学博物館共同企画シリーズⅡ



閉ざされた島

開かれた海

— 鎖国のなかの日本 —

閉ざされた島々日本。近世日本の鎖国というイメージは私たちに閉塞感を与える。しかし、そこには開かれた海を介して躍動した姿があった。西南学院大学博物館と神戸大学海事博物館が所蔵する資料から近世日本の実像に迫る。

2012(平成24)年

6月2日(土) - 8月4日(土)

時間 | 午前10時～午後6時(入館は午後5時半まで) ※日曜休館
会場 | 西南学院大学博物館特別展室 | 入場料 | 無料
主催 | 西南学院大学博物館 | 共催 | 神戸大学海事博物館
協力 | 船の科学館・海と船の博物館ネットワーク

— 第11回 — 特別展関連公開講演会 〈事前予約不要・入場無料〉

期日 | 2012年7月14日(土) | 時間 | 14:00～16:00 | 場所 | 西南学院大学博物館2階講堂
講師 | 安高 啓明氏(本学博物館学委員) | 野村 昌孝氏(神戸大学准教授・神戸大学海事博物館専門員)
「鎖国のなかの近世日本」 | 「神戸大学海事博物館コレクション紹介
～海路図を中心にして～」

せいなん 6月23日(土) 10:00～12:00 「地球儀をつくろう」
子どもワークショップ [集合場所] 大学博物館 [対象] 小学生

閉ざされた島 開かれた海 2012(平成24)年11月2日(金)～12月5日(水)
— 鎖国のなかの日本 — Part II ※但し、開館日時は月・水・金曜日の13:30～16:00
[会場] 神戸大学海事博物館

西南学院大学博物館

博物館事務室 TEL.092-823-4785 〒814-8511 福岡市早良区西新3丁目13番1号
URL www.seinan-gu.ac.jp/museum/

西南学院大学



100
Thanks and Next!

閉ざされた島、開かれた海

— 鎖国のなかの日本 —

2012(平成24)年 6月2日(土) - 8月4日(土)

時間 | 午前10時～午後6時(入館は午後5時半まで) ※日曜休館
 会場 | 西南学院大学博物館特別展室 | 入場料 | 無料
 主催 | 西南学院大学博物館 | 共催 | 神戸大学海事博物館
 協力 | 船の科学館・海と船の博物館ネットワーク

古来より日本には海を通じていろいろな文物がもたらされた。前近代から海外との交流はもとより、国内の流通も船が担っていた。四面を海で囲まれた日本は、「海」と「船」とともに成長してきたともいえる。特に17世紀初頭に確立された鎖国体制(海禁体制)は、国内における海路充実の一方で、異国船への対応を余儀なくされる。

本展覧会では江戸時代の海洋日本を反映して描かれたもの。そして、当時の人びとが海や船に込めた想いなどを紹介する。あわせて当時の人が海を通じてもたらされた文物・文化とは何かについて歴史的に迫っていく。

なお、本展覧会は、「社会に開かれた大学」を具現化すべく大学博物館の共同事業として開催している。今回はシリーズ第2弾として、神戸大学海事博物館が所蔵する資料と本学博物館の所蔵資料を融合させた「海」と「船」からみた日本をテーマとした展覧会となった。両大学の研究成果や取り組みを、本展覧会を通じて発信していければと考えている。



朝鮮通信使川御座船絵巻(神戸大学海事博物館蔵)



出島図
(西南学院大学博物館蔵)



紅毛人プラケット(裏面)
(西南学院大学博物館蔵)



御迎御座船屏風(神戸大学海事博物館蔵)



紅毛人硯屏
(西南学院大学博物館蔵)



和船絵馬
(神戸大学海事博物館蔵)



船筆箱
(神戸大学海事博物館蔵)



望遠鏡(神戸大学海事博物館蔵)



南蛮船奉納絵馬
(西南学院大学博物館蔵)



南蛮人行列奉納絵馬
(西南学院大学博物館蔵)



亜米利加船人物之図(神戸大学海事博物館蔵)



火輪大軍船図記(神戸大学海事博物館蔵)

I 近世日本の新時代

II 閉ざされた日本と航海技術の進展

島原・天草一揆の終結がもたらしたのは「新時代」の幕開けだった。寛永鎖国令の発布により南蛮の彩りあふれた時代から一変し、キリスト教が厳禁となる。さらに、日本に來航できる国もオランダ・中国とに限られたことで、日本は独自の文化を創出していくことになる。

寛永鎖国令により、オランダ人と中国人のみが日本での滞在を許されることになる。日本は舶来品や海外の情報を彼らを通じて入手するほかなかった。また、海路充実にともなう、航海技術も進展する。船上での快適さやお洒落を追求したのも造られるなど、趣向をこらしていた。

III 想いを込めた絵馬

海路の充実にともない、おおくの船船が行き交った。船の寄港地は、賑やかな町に発展し、富を蓄えていくことになる。こうして多くの物資を運んできた船は「財福」の象徴として認識されるようになった。船への想いも強まることとなり、国内の船はもとより、南蛮船が行き来していた時代に想いを込めて、これを社寺に奉納する絵馬に託すようになったのであった。

IV 開かれた海

鎖国の終焉

1853(嘉永6)年、浦賀沖にペリーが率いるアメリカ東インド艦隊「黒船」四隻があらわれる。武力による開国をにじませながら交渉がこなされ、日米和親条約が締結される。さらに、1858(安政5)年には、領事裁判権を認め関税自主権がない条約「安政五ヶ国条約」を、米・英・仏・露・蘭と締結する。こうして、江戸幕府が堅持してきた鎖国体制が崩壊し、外国船が行き交う開かれた島国となった。

神戸大学海事博物館

神戸大学(当時神戸商船大学)では神戸大学海事博物館の前身にあたる「海事参考館」が昭和33年に発足されて以降、海事関係の資料を収集、展示されてきた。昭和42年に海事資料館と改称、さらに平成15年10月、神戸大学との統合を契機に、翌年「海事博物館」となった。主な資料には和船や江戸・明治期の海運・航海資料、海運関係者のコレクションなどがあり、その数は約30,000点に及ぶ。

PartII
神戸大学会場

2012(平成24)年 11月2日(金)～12月5日(水)
 但し、開館日時は月・水・金曜日の13:30～16:00
 会場：神戸大学海事博物館

大学博物館共同企画シリーズ

大学には社会との接点として博物館や美術館、動植物園などの附属機関があります。これらは「知の拠点」として、大学における調査研究の成果を公表し、発信しております。これまで本学でも社会貢献事業として展覧会などを開催してきました。本シリーズは大学の垣根を越えて、ふたつの大学博物館が連携することで新しい知識(+α)を創出し、質の高い展覧会(学び場)を提供するとともに、社会に還元することを目的としています。

西南学院大学博物館

博物館事務局 TEL.092-823-4785 〒814-8511 福岡市早良区西新3丁目13番1号
 URL www.seinan-gu.ac.jp/museum/